



高知医療センター

各局による

- ▶看護局
- ▶薬剤局
- ▶医療技術局
- ▶栄養局
- ▶事務局

クオリティ・インディケータ (QI) クリニカル・インディケータ (CI)

看護局における『医療の質向上への取り組み』 看護局長 田鍋 雅子

看護局からは、これまでと同様6つの指標データを報告します。()内は前年度データ

1. 【各種専門領域認定資格取得者率】は23.0%(21.7%)で、前年度より1%上昇しています。資格取得者らが中心となりリンクナース活動を展開しており、看護ケアの質向上につなげています。2. 【経年数5年以上の看護師率】は81.4%(78.7%)、3. 【男性看護師率】は9.9%(9.8%)でした。4. 【新卒新人看護師3年定着率】は76.7%(82.5%)と過去最低の数値となりました。『新人看護師を育てることは私たちの看護を育てること』を合言葉に新人看護師の育成に取り組んでおり、2年目以降の支援・指導体制を見直し、主体的な学びを支援するよう工夫しています。5. 【多職種カンファレンス件数】

は、2,205件(2,562件)でした。前年度、前々年度までもも回る数値であり、多職種と協働して改善に取り組む必要があると考えます。また、カンファレンスの成果により向上した定性的な評価を把握する必要もあると考えています。6. 【デスクカンファレンス実施率】は、14.0%(9.6%)と4%程上昇しました。専門看護師らの地道な活動や実践により、デスクカンファレンスが定着しつつあると考えます。終末期の医療・ケアの質向上や、亡くなられた患者さんのご家族、職員のグリーフケアは、急性期病院であっても重要視しています。今後は、地域にふなだケースにおいても合同のデスクカンファレンス等を展開し、アセスメントやケアを共有するとともに関わった医療者のこのころのケアにもつなげたいと考えています。

看護局「看護の質」インディケータ 2019

指標番号	指標名称	H29	H30	R1	算出単位	分子/分母および備考			
	各種専門領域認定資格取得者率(%)	21.1	21.7	23.0	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：看護局所属の全職員数 備考：特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する(H29年度は153/726人、H30年度は160/738人、R元年度は167/726人)			
	各種資格取得人数(人)	H29	H30	R1		各種資格取得人数(人)			
	がん看護専門看護師	3	3	4		レシピエント移植コーディネーター認定	1	2	2
	小児看護専門看護師	3	3	3		日本褥瘡学会認定師	1	1	1
	急性・重症患者看護専門看護師	1	2	2		栄養サポートチーム専門療法士 認定	1	1	1
	家族支援専門看護師	1	1	1		呼吸療法認定士	25	25	24
	皮膚・排泄ケア認定看護師	3	3	3		心臓リハビリテーション指導士	2	2	2
	感染管理認定看護師	2	2	2		リンパ浮腫指導技術者	4	4	4
	集中ケア認定看護師	3	3	2		インターベンションエキスパートナース	8	7	7
	不妊症看護認定看護師	2	2	2		消化器内視鏡技師	6	7	6
	救急看護認定看護師	3	3	3		第2種滅菌技士	2	3	3
	新生児集中ケア認定看護師	1	1	1		ICLSインストラクター (ICLS・BLSインストラクター)	8	7	7
看護1	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	1	1	1		JPTECインストラクター	3	2	2
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1	1	1		JNTECインストラクター	3	3	3
	慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1	1	1		JTAS(緊急度判定支援システム)インストラクター	1	1	1
	手術看護認定看護師	1	1	1		KIDUKI(ファシリテーターコース)	2	2	2
	慢性心不全看護認定看護師	1	1	1		ISLS/PSLS(脳卒中初期診療)ファシリテーター	1	1	3
	がん性疼痛看護認定看護師	1	1	1		災害派遣医療チーム研修(日本DMAT)	14	13	13
	がん化学療法看護認定看護師	2	2	2		災害派遣医療チーム研修(高知DMAT)	3	5	10
	乳がん看護認定看護師	1	1	1		高知県看護協会災害支援ナース	3	4	4
	がん放射線療法看護認定看護師	1	1	1		新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	4	5	4
	日本精神科看護協会 精神科認定看護師	1	1	1		プラクティカルCTG判読スペシャリスト	6	6	6
	日本看護協会認定看護管理者	6	7	9		がん領域(ELNEC-J)指導者	1	2	2
	第一種衛生管理者	4	4	4		急性期領域(ELNEC-J)指導者	1	1	2
	医療安全管理者認定	2	2	2		弾性ストッキング・コンダクター認定	2	2	2
	高知県糖尿病療養指導士	2	3	3		アロマセラピーインストラクター	1	1	1
	高知県臓器移植院内コーディネーター	3	3	3					

指標番号	指標名称	H29	H30	R1	算出単位	分子/分母および備考
看護 2	経験年数5年以上の看護師の占める割合(%)	76.6	78.7	81.4	年度	分子:経験年数5年以上の正規看護師数 分母:看護師(正規職員)数 備考:一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている
看護 3	男性看護師割合(%)	9.4	9.8	9.9	年度	分子:正規男性看護師数 分母:看護師(正規職員)数 備考:男性看護師と女性看護師の考え方(視点)や、性差は看護の質に影響する
看護 4	新卒新人看護師3年定着率(%)	81.8	82.5	76.7	年度	分子:3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数(4月1日を起点とする) 分母:3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 備考:臨床経験3年目は、フリニカルラダーレベルⅡに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる
看護 5	多職種カンファレンス件数(件)	2,311	2,562	2,205	年度	分子:実施件数 分母:- 備考:チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する
看護 6	デスクカンファレンス実施率(%)	6.7	9.6	14.0	年度	分子:デスクカンファレンス件数 分母:死亡退院患者数 備考:家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す

薬剤局における「医療の質向上への取り組み」 薬剤局長 田中 聡

薬剤局では開院以来、安全で安心な薬物治療を支えるために、調剤や製剤はもとより、病棟業務、がん化学療法の安全管理、抗菌薬の適正使用、救急医療支援や専門的医療チームへの参加など様々な業務を行っています。

医療の進化に伴い処方や注射の使用方法も複雑化するなかで薬剤師は医薬品供給と適正使用推進の役割を担っています。がん化学療法では、すべての抗がん剤の調製を薬剤師が行う体制を確立しており、薬剤師が鑑査・調製を担うことで安全管理を行います。治療の適応が広がり年々進化する抗がん剤治療にも24時間体制で対応しています(指標1)。また病棟業務では薬剤管理指導による薬歴管理や医薬品情報提供で症例に介入し、他職種と連携して患者さんの治療に積極的に参加します。治療の中では医薬品の効果向上や副作用防止の観点から直接または間接的に患者さんに関わります。

例えば、TDM(薬物血中濃度モニタリング)もその一つです。抗MRSA薬(MRSA:多くの抗生物質に耐性を持つ黄色ブドウ球菌)は、TDMによる治療効果と副作用の発現に関するエビデンスが確立されており、TDMの実施は抗MRSA薬適正使用のための重要な業務となっています。R1年度はその実施率も94.7%とほぼ100%に近く、質の高い感染症治療をサポートしています(指標5)。

最後に、薬剤局では良質な薬剤師機能を維持していくために日本医療薬学会認定薬剤師などの各種資格取得者の拡大を推進しています。また災害の分野にも積極的に参加し、日本DMAT隊員や災害薬事コーディネーターなど災害医療に欠かせない役割を担う薬剤師の育成にも力を入れています。今後も薬剤師としての知識・スキルを高め、質の高い医療を提供できるよう取り組みを進めてまいります。

薬剤局「薬学的管理の質」インディケータ－ 2019

指標番号	指標名称	H29	H30	R1	算出単位	分子/分母および備考						
薬剤 1	抗がん剤調製件数(件)	15,563 (58.6)	16,643 (61.2)	16,840 (64.3)	年度	分子:- 分母:- 備考:抗がん剤注射の調製と監査による安全管理()は平日1日平均件数						
薬剤 2	処方薬処方箋枚数(枚)	98,989 (309.2)	94,863 (303.5)	93,712 (294.7)	年度	分子:- 分母:- 備考:処方薬の取り揃えと監査による処方の適正化()は平日1日平均枚数						
薬剤 3	注射薬処方件数(件)	481,600 (1,410.5)	482,418 (1,429.3)	424,804 (1,271.0)	年度	分子:- 分母:- 備考:注射薬の取り揃えと監査による処方の適正化()は平日1日平均件数						
薬剤 4	多職種連携における質疑応答件数(件)	6,415	4,872	4,150	年度	分子:病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数 分母:- 備考:チーム医療における薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤 5	抗MRSA薬のTDM実施率(%)	86.8	86.4	94.7	年度	分子:抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母:抗MRSA薬投与患者数(単回使用を除く) 備考:抗MRSA薬の適正使用に関する指標						
薬剤 6	薬剤局に関連する各種認定資格取得者延べ人数(人)	26	24	27	年度	分子:- 分母:- 備考:特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する						
	各種資格取得人数(人)			H29	H30	R1	各種資格取得人数(人)			H29	H30	R1
	日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師			7	7	7	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師			2	3	3
	日本医療薬学会認定薬剤師			2	1	2	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師			1	2	2
	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師			2	2	2	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師			3	2	2
	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師			2	1	1	日本DMAT隊員			3	2	3
日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師			1	1	1	高知県災害薬事コーディネーター			3	3	4	

医療技術局 における『医療の質向上への取り組み』 医療技術局長 岡田 由香里

医療技術局には、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、視能訓練士、臨床工学技士が所属しています。多岐にわたる医療技術を客観的に評価するため4職種から6つの指標で機能を数値化し公表しています。

臨床検査技術部では、患者さんおよび医療従事者に対して、安全で快適な医療環境を提供するため、感染防止対策に積極的に取り組んでおり、生理検査科を対象に手指消毒薬と手袋の消費量を指標として取り上げています。また、血液管理科では平成28年4月より「輸血後感染症検査」の実施率向上に取り組んできました。一定効果はみられましたが、令和2年3月の法改正により、検査対象患者を「輸血患者全例」から「感染リスクを考慮し、感染が疑われる場合等」に変更しました。従ってこの指標は今回限りとなります。

リハビリテーション技術部では早期離床・廃用症候群の予防に向け、発症または術後早期より救命救急病棟を含むベットサイドにて超早期のリハビリテーションに取り組ん

でいます。また、救命救急病棟に専任の理学療法士を配置、休日2名体制を実施することで365日、切れ目の無いリハビリテーションを提供しています。

医療技術の発展と多様化に伴い、多くの医療機器が導入されています。安全に使用するためには、医療機器の使用に関する知識を向上させることが必要です。そのため臨床工学技術部では医療機器の知識習得の指標として、院内の医療機器研修会の開催回数を取り上げています。臨床工学技術部では、研修を通じて医療機器を適切に使用するための知識と技能の習得に努めています。

放射線技術部では放射線技術の専門性、多様性に対応するため専門技師の育成に力を入れています。特に各分野の学会、講演会を聴講するだけでなく学術発表や講演を自ら行い、レベルアップと技術の伝授に力を入れています。

今後も、安全で良質な医療技術の提供に取り組んでいきたいと考えています。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター 2019

指標番号	指標名称	H29	H30	R1	算出単位	分子/分母および備考
医技1	生理検査科における手指消毒薬使用量(本)	75	91	90	年度	分子：手指消毒薬の使用量 分母：－ 備考：手指消毒薬は250mlを1本とする
医技2	生理検査科における手袋使用量(箱)	123	133	102	年度	分子：手袋の使用量 分母：－ 備考：1箱250枚入とする
医技3	輸血後感染症検査実施率(%)	17.8	17.0	18.2	年度	分子：輸血後感染症検査実施数 分母：輸血患者数 備考：院外で実施された輸血後感染症検査を含む
医技4	入院患者におけるリハビリテーション実施率(%)	27.2	27.0	25.0	年度	分子：リハビリテーション実施患者数 分母：入院患者数
医技5	医療機器に関する研修開催数(回)	141	152	102	年度	分子：医療機器に関する研修開催数 分母：－ 備考：メーカーによる研修を含む
医技6	放射線技術についての学会発表・講演の割合(技師一人あたりの回数)	0.32	0.55	0.48	年度	分子：放射線技術に関する学会発表数と講演回数 分母：放射線技師の職員数 備考：放射線技術の質が向上する

栄養局 における『医療の質向上への取り組み』 栄養局長 福井 康雄

栄養局では開院時から各病棟に管理栄養士を配置し、臨床栄養管理を行っています。

近年、栄養療法の重要性は院内全体に共有され、病棟管理栄養士の役割も認識されています。管理栄養士の業務としては、栄養不良患者さんをスクリーニングし、病状・治療経過・臨床データなどの情報を収集します。次にそれに基づいたアセスメントを行い、面談やカンファレンスなどを通じて適切な栄養介入を行っています。さらに、日々の栄養管理に加え、チーム医療としてNST(栄養サポートチーム)に参加しています。

一方、高知県立大学との連携事業では「慢性腎臓病(CKD)患者さんのための食事療法手引き」を開発しパンフレットを作成・配布しております。残念ながら今年度はCOVID-19感染対応のためCKD料理教室は延期しています。

●各種認定取得の指標

栄養局では管理栄養士における学会等の認定取得を指標として挙げています。今年度は職員交代のために資格取得率が低下していますが、引き続き認定取得に向けて学会発表や研修会参加をサポートしていきます。

●栄養食事指導件数の指標

管理栄養士が医師の依頼を受けて行う栄養食事指導件数を指標としています。栄養士の視点から各種データを評価し、栄養指導の必要性を医師に提案しています。これらの取り組みにより、入院・外来の栄養指導算定件数は徐々に増加しています。栄養食事指導を行うことで、入院中はもとより退院後の食生活改善につながります。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター-2019

指標番号	指標名称	H29	H30	R1	算出単位	分子/分母および備考		
栄養 1	入院・外来の栄養食事指導件数(件)	3,019	3,188	3,531	年度	分子：— 分母：— 備考：個人・集団栄養食事指導の算定件数(前年までは実施件数だったが、算定件数に変更)		
	栄養局に関連する各種認定資格取得者率(%)	233.3	244.4	188.9	年度	分子：各種認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：栄養局所属の全職員数 備考：専門領域の認定資格取得者の人数により、栄養管理の質向上につながる。高知DMAT隊員、日本栄養士会災害支援チームスタッフを追加。(H29年度は21/9人、H30年度は22/9人、R1年度は17/9人)		
栄養 2	各種資格取得人数(人)					H29	H30	R1
	糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)					4	4	3
	高知県糖尿病療養指導士					0	2	2
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本静脈経腸栄養学会認定)					2	2	1
	TNT-D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)					3	1	0
	病態栄養専門師(日本病態栄養学会認定)					4	4	3
	がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)					3	3	2
	がん病態栄養専門管理栄養士研修指導士(日本病態栄養学会認定)					3	3	2
	医療安全管理者(日本病院会認定)					1	1	1
	高知DMAT隊員					1	1	1
	日本栄養士会災害支援チームスタッフ					0	0	2
	腎臓病療養指導士(日本腎臓学会・日本腎不全看護学会・日本腎臓病薬物療法学会・日本栄養士会)					0	1	0

事務局における『医療の質向上への取り組み』 事務局長 宮村 一郎

事務局では、当院が、県内の基幹的な公立病院としての役割を継続的に果たすことができるよう「高知医療センター経営計画」を策定し「経営の健全化」に取り組んでいます。また、医療現場において、高度急性期病院としての機能を十分に発揮するために人的及び物的な環境整備をしっかりと行い、県民、市民から信頼される公立病院として高水準の医療を安定して提供できるよう努めています。

事務局における人的環境整備として、診療情報管理士や医

療情報技師、医療ソーシャルワーカーなどの専門職を採用するとともに、医師事務作業補助者(医療秘書)による診断書や証明書、診療情報提供書等の書類作成、学会関連のデータ登録や調査等、医師の事務負担を軽減することにより、医師が患者さんとの時間を多くとれる体制の強化に取り組んでいます。

今後もより良質な医療を安定して提供できる取組を進めてまいります。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター-2019

指標番号	指標名称	H29	H30	R1	算出単位	分子/分母および備考		
事務 1	事務局に関連する各種認定資格取得者率(%)	65.4	56.9	56.1	年度	分子：事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母：事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する (H29年度は34/52人、H30年度は33/58人、R1年度は32/57人) ※複数の資格を取得している者を重複計上		
	各種資格取得人数(人)					H29	H30	R1
	診療情報管理士					13	12	10
	医療情報技師					5	5	5
	社会福祉士					10	10	11
精神保健福祉士					6	6	6	
事務 2	医師事務作業補助者(医療秘書)	44	44	43	年度	分子：— 分母：— 備考：医師の事務的作業を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する		